

## 原寸大の「戦艦大和」

「男たちの大和／＼YAMATO」という映画の撮影のために作った、原寸大の戦艦大和のロケセットを一般公開しているという話を新聞で読んで、時代錯誤もいいところだと呆れた。

呆れたけれど、原寸大のセットというのが気になって、広島島の尾道まで見物に行くことにした。

いまだき大和の模型は小ささまざま、精巧なのがいくらでもある。大艦巨砲主義を象徴する世界最大、最後の戦艦を偲ぶさすがには事欠かないけれど、原寸大というのは今迄に無かった。流石に原寸大とはいうものの、巨躯全体をすべて作ったのではなくて、全長二百六十三メートルのうちの前方七割、約百九十メートルの部分を原寸大で再現したセットだという。まったくの愚挙としか言いようがない。

しかし、総工費五億円を要しようが、ハリボテであろうが日本の誇った巨大戦艦「大和」を再現してみたい気持ちはよく判る。この艦の悲痛な歴史には人をそんな気持ちに駆り立

てるものがある。

その意気込みが気に入った。

セツトは尾道市街の対岸にある向島の造船所の廃工場跡に造られていた。瀬戸内海に面した尾道の町の前の、川のように狭い海峡を渡し船で渡り、巨大な工場群の廃墟の中をシャトルバスで数分走った岸壁である。栈橋からそれほどの距離でもないのに歩くのを許さず、全員をバスに詰め込んで運ぶのは例によって「警備上の理由」からなのであるが、廃墟や遺構に興味のある私にはこの種の親切は有難迷惑である。

つい先年まで世界一の建造高を誇った造船日本の工場の跡を、アマチュアながら産業考古学専攻を自称する私はゆっくり歩いて見たかった。金になるものはみんな運び出して何にも残ってないですよとおっしゃるが、錆びた鉄工場にも、干上がったドックにも、その気になれば面白いものはいろいろとあるのに。

実は戦艦大和への私の関心も半ば以上、七十年前の日本の造船技術への賛嘆の念から来ている。明治の初め、英国から

なけなしの金で購入した軍艦で海軍を創設してまだ五十年にもならない頃なのに、呉で「大和」、長崎で「武蔵」の巨艦二隻を、それもほぼ同時期に建造する技術を持つに至っていたことがとても誇らしい。

しかし時は既に戦艦の強大さを誇る時代ではなくなっていた。海戦の勝敗を決めるのは戦艦の砲門数や口径ではなくて航空戦力であることを、真珠湾奇襲によって日本海軍は世界に示しながら、自らは航空機優先への転換に遅れて三番艦「信濃」を急遽航空母艦に改造したのはよしとしても、四番艦「紀伊」を「改大和」型として依然戦艦建造にこだわったらしいのは頂けない。戦争自体の帰趨もまた軍隊の戦闘力ではなくて銃後の思想、いくなれば民力が決める。

まさにそのことを世界に証明して私達の親の世代は敗れはしたが、工業技術の粋として「戦艦大和」を見れば、滅入ることばかりではない。

バスを降りる前から青白色の大和の艦首が見えている。

「菊の御紋章」もちゃんと取り付けてあって金色に光って

いる。そして左側の舷側の太く長い連なりの向こうに、ハリネズミの様だと形容された対空砲塔群が折り重なるように並んでいる。しかし、もの足りない。

左右対称に大小のブロックを積み上げたような艦橋も、その背後に力強くうねる煙突も、艦の高さを表現してくれる構造物が見当たらない。口径四十六センチの主砲六門は二階建てに重なって前方を睨んでいるけれども、その後方はいか曖昧で、対岸の尾道の緑の山が見える。艦橋を再現していないのは先刻承知ではあるが、尾道の街のいたるところで見かけた映画のポスターでも、旅館の亭主のくれたチラシの写真でも前甲板に整列した水兵の、遙か向こうに堂々たる艦橋が高く聳えているので、ひよつとしたらやっつてのけたのかと密かに期待していたが、あれは合成画像だったらしい。

喫水線から甲板までの高さも階段が短く物足りないが、舷門に登り着いてそこからせりあがった艦首の方に向かえば、さすがに大和坂といわれた前部甲板は広い。三千人の乗組員が整列出来たのだそう。ここで「高さ」はともかく原寸大の「広さ」は実感出来たので、これで朝五時起きして尾道ま

でやって来た甲斐があったということにした。

でもちゃんとした「大和」も見ておきたいので翌日、呉に廻って昨年の四月に開館したばかりの「大和ミュージアム」を見学することにした。ここには素晴らしく精巧な十分の一の模型がある。十分の一と云えば全長二十六メートル余、艦橋は普通の家の三階の高さがあり、その威容には十分堪能したが、何故だか艦首が港を背にして陸に向かっていて、三階までぶち抜き、紺碧の海の見える大きな採光窓は艦尾にある。惜しいかな、これでは完全に逆光になって「大和」の全駆を前方から見上げるのは難しい。

しかし、我らが「大和」が出航することはもうないのだからこれでいいのかもしれない。

(神庫 二〇〇六年 三月)